

トイレのオールジェンダー利用に関する研究 その5
職場や公共施設における男女共用トイレの利用意向と利用する条件

正会員 ○高橋 未樹子*
正会員 日野 晶子**

トイレ トランスジェンダー オールジェンダートイレ
LGBT オフィス 公共施設

1. 研究の背景と目的

本研究は、トランスジェンダー^{注1)} (以下、トランス)を含めて性自認に関わらず誰もが安心して快適に利用できるトイレの環境整備をめざしている。2017年に調査を行った先行研究¹⁾ではオフィストイレに焦点を当て、トランスのトイレ利用における課題や、トイレの選択肢の重要性を明らかにした。

その調査から5年経過した2022年に改めて、オフィスや公共施設のトイレを対象に同様の調査を実施した。既報²⁾では、この5年でのシスジェンダー^{注2)} (以下、シス)のトランスに対する意識の変化やトイレ利用における課題、多機能トイレの利用実態や課題について報告し、多機能トイレとは別の男女共用トイレ(オールジェンダートイレ)に潜在的ニーズがあることを示した。

近年、男女共用トイレを設置する事例が少しずつ増えてきている。しかし、中には「使いづらい」「使いたくない」という声があがっているものもある。そこで本報では、オフィスや公共施設に男女共用トイレがあった場合の利用意向や利用条件について報告する。

2. 調査方法

2022年11月に、インターネット調査を行った。回答者は、既報²⁾のモニター調査回答者のうち、表1の条件により抽出したシス計1,000人、トランス計325人である。

表1. 調査概要

調査対象	シスジェンダー	トランスジェンダー
調査時期	2022年11月18日～29日(計12日間)	
有効回答者数・年齢	1,000人(男女各500)	325人(FTM50,FTX105,MTX83,MTF87) ^{注3)} 20-59歳
本調査抽出条件	<ul style="list-style-type: none"> ・有職者(専業主婦・主夫,学生,無職は対象外) ・就業する建物にトイレが設置されている ・職場出勤日数:2-3日/週以上(シス),1日/週以上(トランス) ・シスのみ/就業フロアの人数(他社等も含む):30人以上 	

3. 調査結果

3-1. 男女共用トイレの利用意向

オフィスや公共施設に、男女別トイレや多機能トイレとは別に、壁で仕切られた手洗い器付の個室である男女共用トイレがあった場合の利用意向を尋ねた結果を図1、2に示す。トランス、シス男女ともに、オフィスの方が公共施設に比べて利用意向が低い傾向が見られた。これは、

オフィスは顔見知り同士の利用による気まずさがあるからだと考えられる。それでも、トランスとシス男性において7割以上、シス女性でも6割以上が「問題なく利用する」「条件や状況によっては利用する」と回答している。

次に、オフィスの男女共用トイレにおけるシスの利用意向を2017年と2022年で比較した結果を、図3、4に示す。2017年調査では「日常的に利用する/条件や状況によっては利用する/利用しない/わからない」の4択、2022年調査では「問題なく利用する/条件や状況によっては利用する/できれば利用したくない/絶対利用したくない/わからない」の5択で尋ねた。尋ね方が若干異なるものの、男女ともに利用する割合がこの5年で増えている。特に、「問題なく(日常的に)利用する」との回答が大きく伸び、男性では24.1ポイント増の34.8%、女性は23.5ポイント増の28.8%であった。少しずつ男女共用トイレに対する意識が変わってきていることが確認された。

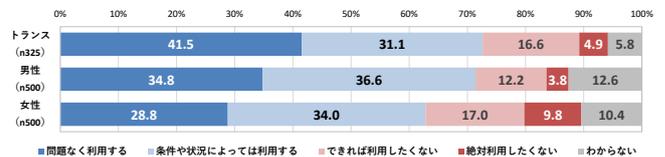


図1. オフィスの男女共用トイレの利用意向

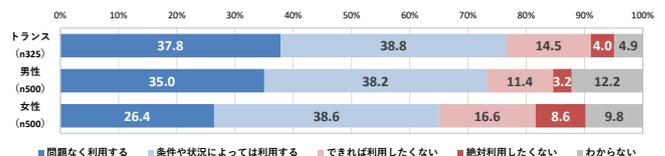


図2. 公共施設の男女共用トイレの利用意向



図3. シス男性の利用意向 2017/2022年比較 (オフィス)

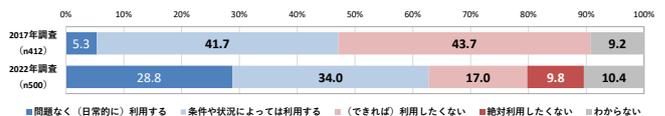


図4. シス女性の利用意向 2017/2022年比較 (オフィス)

A study on restroom access for all genders, Part 5.
Intention to use all-gender restrooms at office and in public building and conditions for using them

TAKAHASHI Mikiko, HINO Akiko

3-2. 男女共用トイレを利用したくない理由

2022年調査において、男女共用トイレを「できれば利用したくない」「絶対利用したくない」と回答した人に対して、その理由を尋ねた結果を図5に示す。オフィス、公共施設ともに、特にシス女性は異性と利用することに抵抗を示す結果となった。シス女性において「知り合いの異性と使いたくない」が、オフィスの方が14.9ポイント高い27.6%であった。オフィスでの「知り合いの異性」は同僚、公共施設での「知り合いの異性」は家族や友人が想定されるからだと考える。

他のジェンダーに比べてシス男性は、「他の人から変な目で見られそう」のみ突出して多く、他人からの見られ方を気にしている様子が伺えた。また、トランスジェンダーは「性的マイノリティではないかと思われそう」が多い結果となった。

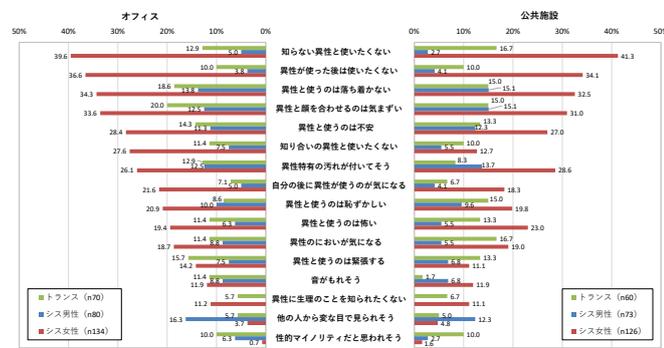


図5. 男女共用トイレを利用したくない理由

3-3. 男女共用トイレを利用する条件

2022年調査において、男女共用トイレを「条件や状況によって利用する」と回答した人に対して、その条件や状況を尋ねた。そのうち、条件に関する結果を図6に示す。オフィスと公共施設で大きな差異は見られなかった。いずれも「清潔」「音やニオイが気にならない」「広めの個室」「付属設備の充実」が上位にあがった。特にシス女性において、「清潔」「音やニオイが気にならない」といったトイレとしての基本要件をあげる声が多かった。

他のジェンダーに比べてシス男性は、「付属設備の充実」が高い傾向が見られた。トランスにおいては、「内装のグレードが高い」が高くなる傾向が見られた。内装のグレードが高いことが、男女共用トイレを利用する“言い訳”になると考えられる。また、「複数設置されている」「出入りが他人から分かり難い」も他のジェンダーより高い傾向が見られた。

4. まとめ

シスジェンダー1,000人、トランスジェンダー325人を対象としたアンケート調査から、男女共用トイレについて以下のことが分かった。



図6. 男女共用トイレを利用する条件

- 1) オフィスの方が公共施設より男女共用トイレの利用意向は低いものの、オフィスでもトランスやシス男性で7割以上、シス女性で6割以上が「(条件や状況によっては)利用する」と回答している。この割合は2017年より大きく伸長し、男女共用トイレに対する認知の広がり、意識の変化が伺える。
- 2) 異性で同じトイレを利用することに抵抗を示す声は、一定数みられる。特にシス女性においてその傾向は強い。
- 3) しかし、条件を整えば利用するという人も、トランス、シス男女ともに4割程度はいる。その条件としてどのジェンダーにも共通することが、清潔であること、音やニオイが気にならないこと、広めの個室であること、付属設備が充実していることであった。特にシス女性は、清潔・音やニオイが気にならないといったトイレとしての基本要件を重要視し、シス男性は付属設備の充実を重要視している。

次報では、男女共用トイレの配置について報告する。

謝辞

本研究は、故岩本健良先生の貴重な助言と多大な貢献なくしては成りませんでした。先生のご逝去を深く悼み、その功績に敬意を表するとともに、心からの感謝を申し上げます。

注

- 注1) 出生時に付けられた性別と性自認が一致しない人の総称。
- 注2) 出生時に付けられた性別と性自認が一致し、それに従って生きる人。トランスジェンダーではない人。
- 注3) FTMはFemale to Male、FTXはFemale to X-gender、MTXはMale to X-gender、MTFはMale to Femaleの略。

参考文献

- 1) 高橋未樹子、日野晶子、岩本健良他、「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究」(その1~6), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2018~2020年
- 2) 高橋未樹子、日野晶子、岩本健良、「トイレのオールジェンダー利用に関する研究」(その1~4), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2023~2024年

*コマニー株式会社 博士 (人間環境デザイン学)

**株式会社 LIXIL

* COMANY INC. Dr. Human Environment Design

** LIXIL Corporation